



上末っ子

令和5年2月28日

3月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>



学校ホームページ用 QR コードです。学校の様子をご覧くださいませ。

温かな環境で前向きな『内言』を育む

校長 内田 宏平

令和2年1月に国内初の感染が判明して以降、新型コロナウイルス感染症を警戒しながらの社会生活が営まれてきました。学校現場でも、突然の休校や分散登校に揺れ、様々な対策を講じ、試行錯誤しながら進んできた三年間でした。保護者の皆様には、お子さんの日々の健康観察はもちろん、教育活動の変更や見直しを温かく受けとめていただき、学校を支えていただけたこと、本当にありがたく感じています。

先日、久しぶりに分散無しでの授業参観を行いました。多くの参観者に見守られながら、子どもたちがうれしそうに活動している姿が強く印象に残りました。やはり、子どもは大人に見守られる中でこそ、豊かに成長していくのだなと実感しました。

数多くの哺乳類の中で、休み休みお乳を飲むのはヒトの赤ちゃんだけなのだそうです。休み休み飲む過程で、大人が体を揺すってくれたり、言葉かけをしてくれるのを聞いたりしているのだとか。赤ちゃんにとってお乳を飲むということは、栄養をとるというだけではなく、周囲とコミュニケーションをとるということも目的の一つになっているのです。

最初は言葉をもたなかった赤ちゃんは、次第に自分の言葉を獲得していきます。『内言』といわれるものです。『内言』を用いて自分自身に語りかけ、頭の中を整理したりするので「思考の言葉」ともいわれます。子どもは、周囲の人が自分にかけてくれる言葉を『内言』として習得するそうです。つまり、周囲から「どうせ…」というようなネガティブな言葉を投げかけられていると、子どもが自分自身に語りかけるための『内言』も否定的なものが多くなってしまうということです。逆に、周囲から温かい言葉をかけられていると、自分に寄り添った温かい『内言』を多く使えるようになります。

私たちは、一日の中で多くの言葉をやりとりしますが、一番多く聞いているのは「自分」の言葉だと感じます。自分の心の中で発せられている『内言』がどのような色をもつかによって、私たちの人生の方向は大きく変わってくるような気がします。

コロナ禍のように予測できない出来事は、近い未来でも起こり得るでしょう。また、感染症に限らず、技術的な進歩によって予測できないような状態が生じる可能性も大きくあります。しかし、どのような未来がやってこようとも、我々人間が生まれながらにコミュニケーションをとることを欲する生き物であったり、コミュニケーションから生まれる『内言』が自身の心を豊かにするための大きな要素となったりすることには変わりありません。

授業参観での一場面…

発表を終えた子が、誇らしげに保護者の方を見て、マスク越しにも分かるぐらいの笑顔を見せていました。私は、咄嗟に、その子の保護者を見つけようと教室後方を見ました。探すまでもなく、パッと目に飛び込んできたのは、子どもの笑顔に癒えるお母さんの素晴らしい笑顔！大きな笑顔がマスク越しにはじけていました！何だか、鼻の奥がツンとしました。言葉を介してはいたわけではありませんが、きっと、この子の心にはお母さんの温かい言葉が届いているだろうなあと感じました。温かな『内言』がしっかりと定着しているのだろうなあとうれしくなりました。

令和5年度も、保護者の皆様と学校、地域の皆様と、子どもたちを取り巻く環境であるすべての人が連携しながら子どもの成長を支えていけたら、こんなに幸せなことはありません。すでに、赤ちゃんではない小学生の子どもたちは、成長期特有の複雑な内面を表出します。家庭と学校、地域とで異なる表情を見せることも多々あります。ですが、我々大人は、子どもの様子を多面的に理解する努力を重ねながら、子どもの幸せな未来のために豊かな『内言』を増やすことを目指していきたいです。



後援会の花壇ボランティアの皆さんが正門周辺の花壇を整備してくださいました。こういった活動も、子どもたちの心の豊かさにつながっていきます。ありがとうございました！